

西本研究室の紹介

2010年版

2010年5月7日
知識科学教育研究センター
西本一志

西本 一志 (にしもと かずし)

- 1962. 9. 13. 兵庫県神戸市に生まれる。現在47歳
- 私立六甲中学・高校卒業：ブラスバンドでアルトサクソ担当
- 1987. 3. 京都大学大学院工学研究科機械工学専攻修士課程修了
 - ディーゼルエンジンのシリンダ内流動の研究
- 1987. 4. ~1996. 5. 松下電器産業(株)
 - ネットワークソフトウェアの研究開発
 - OSI layer 6-7, TCP/IP, 次世代ネットワークプロトコル, IPルータ開発
- 1992. 6. ~1996. 3. ATR通信システム研究所
 - 発想支援システムの研究を開始
- 1996. 4. ~2001. 9. ATR知能映像通信研究所 客員研究員
- 1998. 9. 博士(工学)取得 (論文博士:大阪大学工学部)
 - 対話型協調作業における創造性を支援するシステムに関する研究
- 1999. 6. ~2007. 9 北陸先端科学技術大学院大学 知識科学教育研究センター 助教授
- 2000. 10. ~2003. 9 科学技術振興事業団 さきがけ研究21「情報と知」領域 研究員
- 2002. 1. ~ 2006. 3 ATRメディア情報科学研究所 非常勤客員研究員
- 2006. 11. ~2007. 8 情報処理推進機構 未踏ソフトウェア創造事業 開発者
 - 「弾き語り」のための楽器の開発
- 2007. 10 ~ 現在 北陸先端科学技術大学院大学 知識科学教育研究センター 教授
- 2008. 4 ~ 現在 知識科学教育研究センター センター長
- 2010. 4 ~ 現在 研究機構担当 副理事

People

後期課程



伊藤直樹



千葉慶人



小林智也



山内賢幸



横山裕基

前期課程



寺澤玲緒



韓 超



加藤圭吾



金屋陽介



藤田恭平



森 郁彌



楊 旭



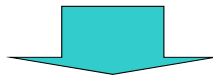
王 曦虹

研究テーマ

- 創造活動のためのユニバーサルメディア
～誰もが知識創造に貢献できる社会を目指して
 - プロからアマチュアまで, 誰もが
 - 心の中にある様々な思いや考えを
 - 簡単・迅速・直接・的確に**表現・表出・伝達**することを可能とするメディアの実現

背景

- 知識創造社会の到来
 - 知識生産性の強化
 - 既存の「創造できる人材」の能力強化
 - 創造できる人材の増員
- 従来の創造支援技術
 - 「すでに創造的能力を発揮している人材の能力強化」が目的
 - 「発想支援システムは、創造的な人にしか使えない」




- 創造的能力をまだ発揮できていない人を創造できる人材にする手段が必要
 - 才能の無い人を創造的にするのではない

2つのバリアを解消

- 道具のバリア
 - 楽器
 - 絵筆
 - パソコン
 - etc. etc.

これらは完成された道具か？
- 人の中のバリア
 - 認知的能力の制約
 - 身体的能力の制約

 埋もれた才能を引き出す道具

研究の進め方

- 問題発見
 - **できるようにになりたい!
- 分析
 - なぜ私は**できないのだろう?
 - 邪魔しているもの・足りないものは何?
- 解決策の考案
 - こういう道具・メディアがあればいいに違いない!
- **試作品の実装**
 - **実際に作って、使ってみる**
- 評価
 - 予想通りうまくいったか?
 - 想定外の効果は?
 - メディアのメッセージ
 - なぜ[うまくいった | うまくいかなかった]のか?



研究のスタンス

- 技術よりもオリジナリティ重視
 - まず笑えて、次に「なるほど」
 - 自分が使いたいものを作る
 - 同じことができるなら「ローテク」でOK
- しつこい評価実験
 - 素早く作って、長く使う
 - 使ってみるといろいろ見えてくる
 - 「次」に繋がる発見が得られる
- 創造活動の主体はあくまでも「人」
 - 計算機を創造的にしてもうれしくない

必要な知識・スキル

- 知っておくと便利(≠必須)な知識・スキル
 - プログラミング能力
 - 言語はなんでもいい
 - K119 基礎プログラミング
 - K227 オブジェクト指向プログラミング
 - C211 知識創造システム方法論
 - ハードウェア製作能力
 - C221 メディア創造システム方法論
 - 研究の考え方と分析方法
 - K114 実践的社会調査法
 - K427 デザイン創造過程論
 - C431 メディア・インタラクション論
- 音楽関係をやるなら
 - 楽理の基礎(必須)
 - さすがに楽譜が読めないと無理でしょう

研究室の日常活動

- ゼミ
 - 定例ゼミ: 毎週1回程度, 15時10分から
 - 研究進捗報告: 2週に1度
 - 英文文献紹介: 2週に1度
 - イントラブログを使った日報
 - 16時の会: 毎日お茶の時間を設けている(参加自由)
- 酒ゼミ
 - まだ研究になるかどうかわからない研究のタネを飲みながら育てる.
 - 5/21(金)18:00~ 西本研オープンハウス
 - 2・3棟中間棟8階ゼミ室. タダ酒・タダ飯あり!
- 合宿・同窓会
 - 9月に研究室旅行
 - 3月にインタラクションと連動した同窓会
- 時々(しばしば?)飲み会

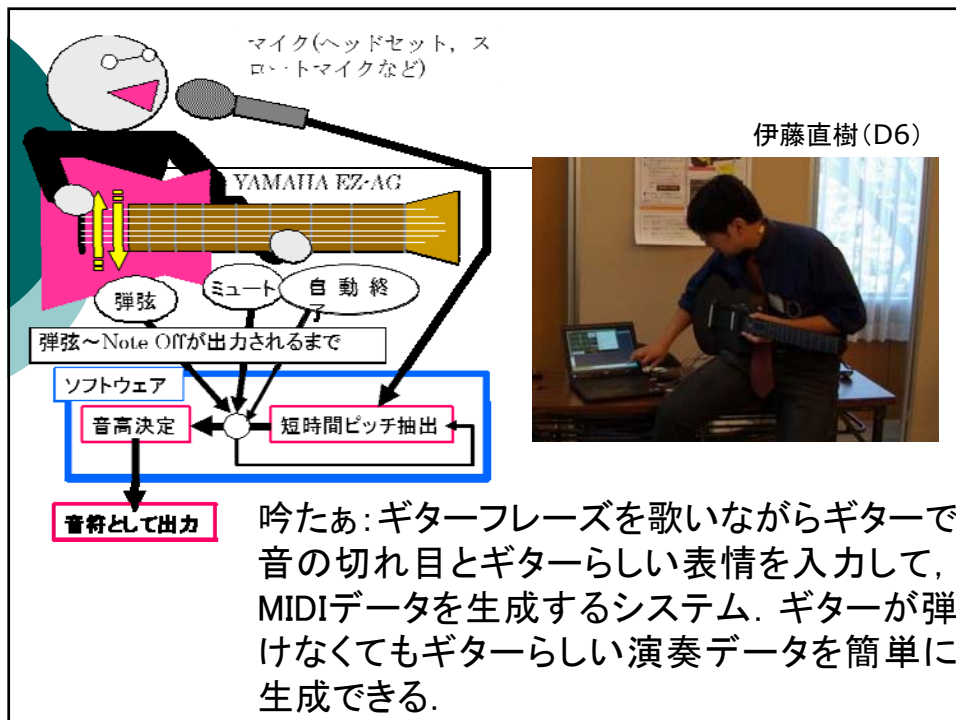
M1プロジェクト

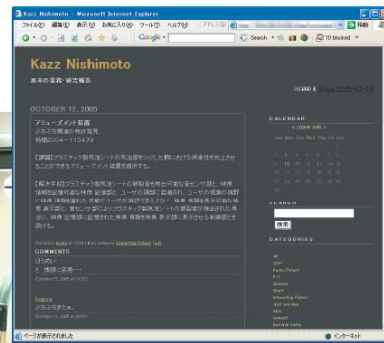
- 配属直後にM1全員のグループで研究を実施
- テーマはトップダウンに提供
 - 後期課程学生が指導
- 「作ってみる」からスタート

主たる学会活動

- 情報処理学会
 - インタラクション: 国内の主たる発表の場
 - 今年は口頭発表2件, インタラクティブ発表3件, その他1件
 - ヒューマンインタフェース研究会
 - 音楽情報科学研究会
 - グループウェアとネットワーク研究会
 - エンタテインメントコンピューティング研究会
- ACM
 - CHI: 国際会議の主たる発表の場
 - Multimedia
- IEEE
 - Multimedia
- 人工知能学会

研究事例





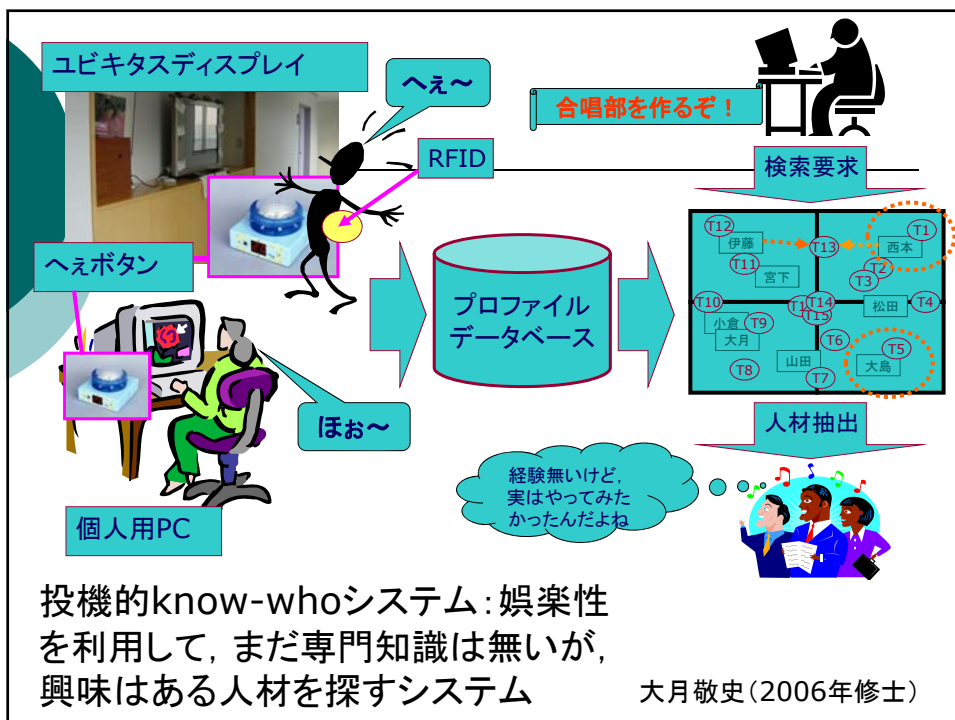
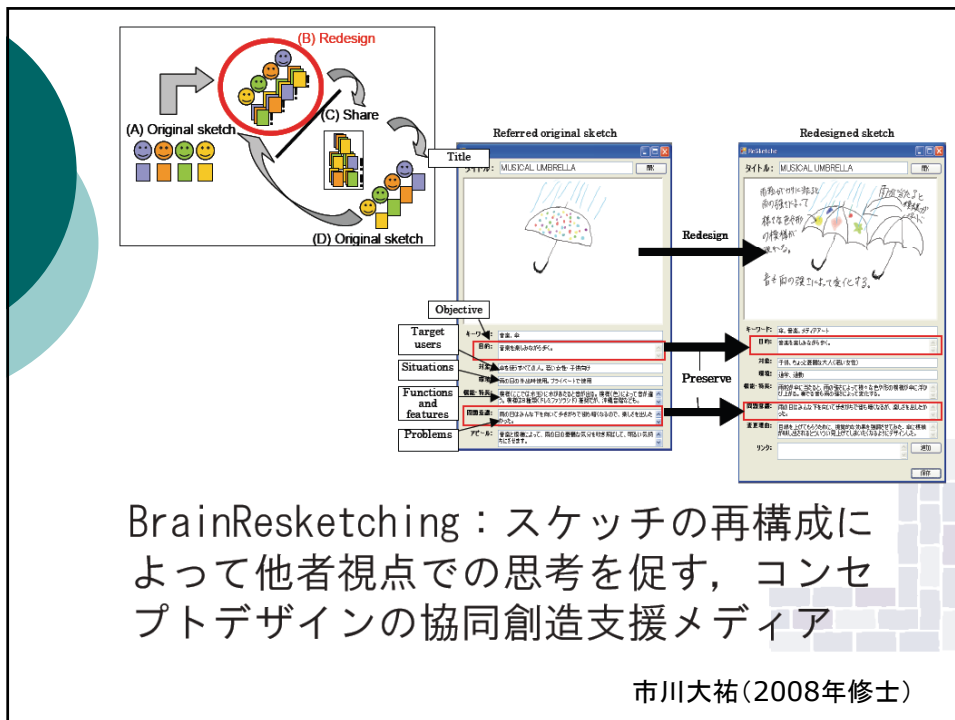
Bolelog: イントラブログと対面対話をシームレスにつなぎ、循環的な知識の創造と醸成を促す、知識の共有・協創促進メディア

千葉慶人(2006年修士, 現D5)



Lovelet: 親子や夫婦, 恋人同士の間でぬくもり感を伝え合い愛情を育む, 非言語感情コミュニケーションメディア

藤田英徳(2003年修士)



押付けられたメッセージ

【メディアアートが生まれた理由に、伝統芸術からの観出があるのでは?】という発言に対して【伝統芸術継承者】という視点を押付けられました。
 それでは、【伝統芸術継承者】という視点に切り換えて、発言してださい。

OK

Cosplay Chat: 複数の人格を使い分けることで複数の異なる視点からの意見を表出しやすくするオンライン会議システム。他人に視点を押しつけることもできる。

王 慧(2009年修士)

送り手

受け手

挿入

比較結果

操作基礎情報

編集過程情報

ユーザプロフィール

基準値

いつもより慎重だな...

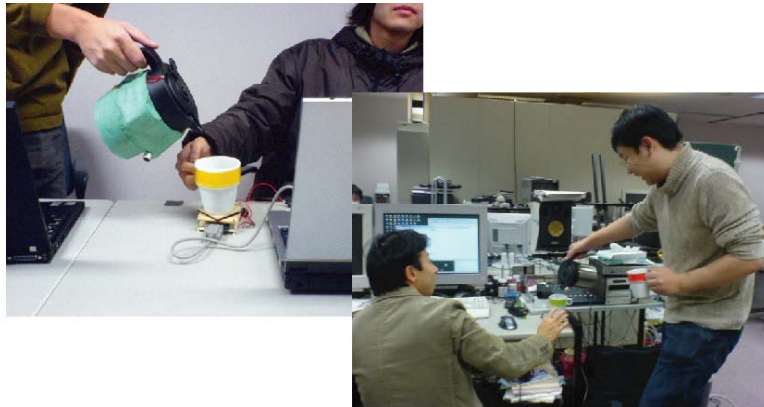
件名: 夜更けにこめんね 差出人: kiyohisa kadono 0:07

会いたい ← メール本文

MAKING TIME DELETE KEYS ← 編集過程情報

PadMail: メール本文作成時の編集状況が普段とどう違うかを自動取得してメールに埋め込み伝達することにより、「言外の思い」を伝えるメールシステム

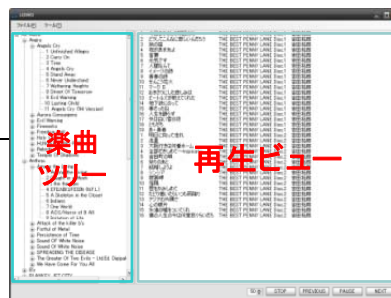
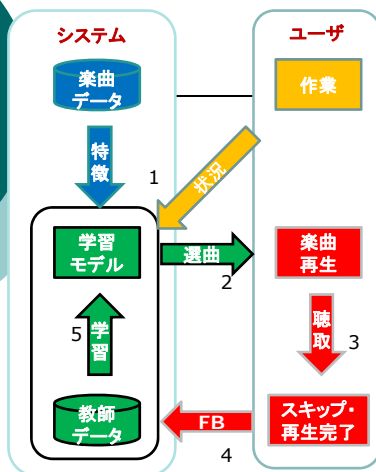
角野清久(2008年修士)



2005年度M1プロジェクト

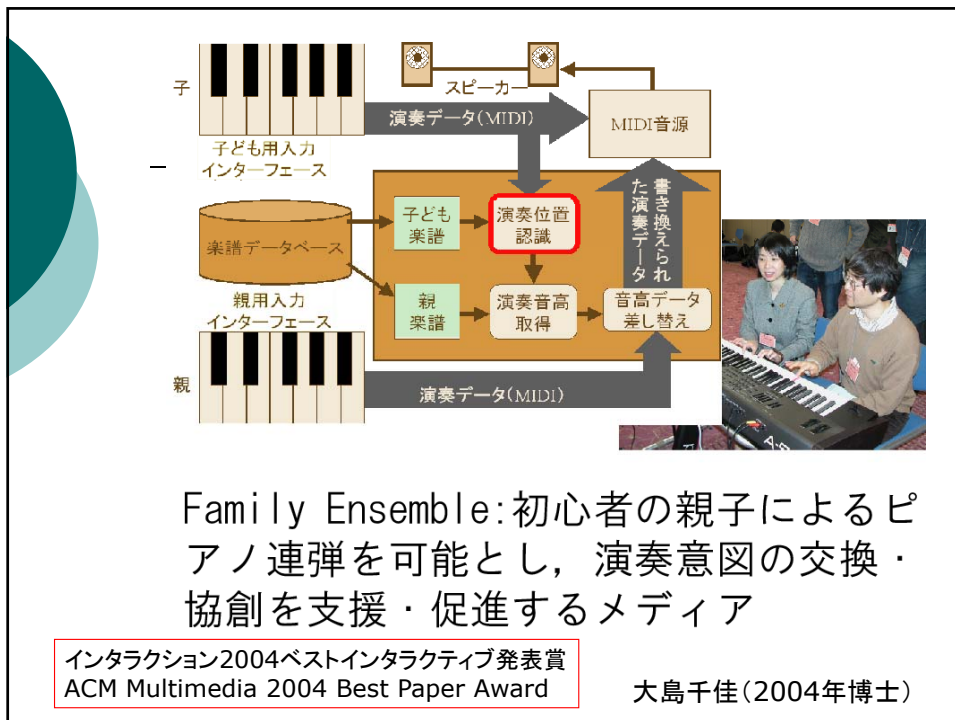
Traveling Cafe:仕切られたオフィスでの
メンバー間の意思疎通を円滑化するコミュ
ニケーション促進メディア

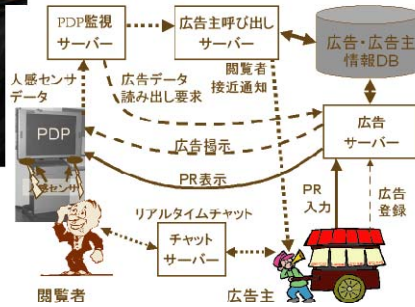
中野・亀和田・杉戸・永岡(2007年修士), 小倉



LISWO: 並行実施している作
業の内容や状況に応じて自動
選曲を行う「ながら聴き」のた
めの音楽プレイヤー

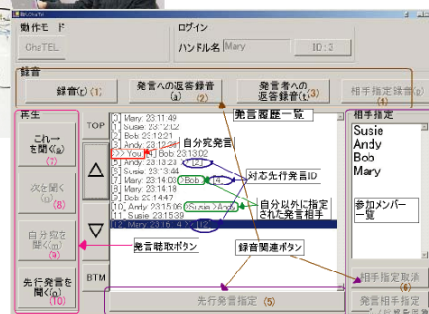
滝澤勇介(2009年修士)





InteractiveFliers: 広告主・閲覧者間の 即時的インタラクションを可能とするコ ミュニティ向け電子広告メディア

根本博明(2003年修士)



ChaTEL: 音声によるマルチスレッド対話 を可能とし, 発話密度・話題密度を増大 するコミュニケーションメディア

小倉加奈代(2006年博士, 現在杉山研助教)



Thermoscore: 皮膚感覚に訴える新しい音楽表現提示メディアと、それによる不可逆的芸術表現の拡張の試み

宮下芳明(2006年博士)

知識センターって…？

- センターか研究科かの差は、学生レベルでは何もない
 - 教官の事務仕事は異なるだけ
 - 学生には有利も不利も無い
 - 唯一、院生ゼミ室が中間棟になる程度の違い
- どうぞご心配なく😊



おしまい

質問などあれば、遠慮なくどうぞ！

knishi@jaist.ac.jp
<http://www.jaist.ac.jp/ks/labs/knishi/>